

### 3 子牛育成を中心とした繁殖農家の指導

#### 1 目的

淡路家畜市場には、体重の軽い子牛、体高の伸びのない子牛が相当数出荷され、それらは極端に価格が安い傾向にある。これは、飼養頭数の減少に拍車をかけ、今後の和牛振興を推進する上で大きな阻害要因となっている。そこで、子牛育成を中心とした農家指導の強化により、子牛の発育状態を改善し、市場の活性化並びに飼育意欲の向上を図るために、繁殖農家の巡回指導を実施した。

#### 2 指導内容（方策）

農家巡回及び少人数による座談会を中心とした指導を実施する。

- (1) 農家巡回：3～6か月間隔で継続指導
- (2) 座談会：少人数での座談会・研修会を開催し、モデル農家の成果を周辺農家へ普及させる。
- (3) 重点指導事項

「兵庫和牛の飼い方（繁殖牛・子牛）」に基づく、適正な飼料給与並びに飼養環境の改善

##### ア 繁殖牛の飼料給与

母牛の生理段階（分娩前・授乳期・維持期）に合わせた飼料給与を行うことにより、泌乳能力の向上並びに分娩期間の短縮を図る。

（泌乳能力の向上による子牛の発育向上も期待）

##### イ 子牛の飼料給与

兵庫県産和牛は、他県産に比べて泌乳量が少なく、また、母牛の産次数により泌乳能力にか

りの差があることから、子牛の栄養不足による発育不良が相当数あると思われる。その対策として、母牛の乳量を補うため早期からの人工乳、良質粗飼料の給与を指導し、子牛の発育促進を図る。

##### ウ 飼養環境改善

多頭飼育等により、子牛の飼育環境が劣悪な場合があり、環境改善指導（子牛用ベッド、休息場の確保）により子牛の疾病発生（呼吸器病、下痢等）を防止し、子牛の健全な発育を図る。

#### 3 巡回指導結果

- (1) 子牛の販売成績があまり良くない農家は、複数の問題点を抱えている場合が多い（表1）。
- (2) 多くの農家で、子牛の下痢・肺炎等疾病の1頭当たりの診療回数が減少しており、症状が軽くなっていると考えられる。
- (3) モデル農家として最も早く指導した農家では、約半年後から発育（DG）の改善がみられ、市場評価も向上した（表2）。
- (4) 問題点の改善が図られた農家では、上記のような効果が現れてきており、現在、対象農家を増やして指導を継続中である。

清水 泰統（洲本家保・衛生課）

表2 A・B農家：指導前後の子牛販売状況

性別	区分	頭数	体重(kg)	日齢	DG(kg)	価格(千円)	価格比
去勢	指導前	13	264	289	0.91	377	0.93
	指導後	17	277	277	1.00	409	1.07
	比較	-	+13	-12	+0.09	+32	+0.14
雌	指導前	10	236	296	0.80	351	0.98
	指導後	9	251	278	0.91	427	1.15
	比較	-	+15	-18	+0.11	+76	+0.17

表1 巡回農家の問題点（初回巡回時 2000年3月末）

巡回	問題点		
戸数	子牛の飼料給与	子牛の飼育環境	母牛の飼料給与
55戸	37戸	29戸	24戸